

平成23年6月吉日

株式会社オレア

代表取締役社長 迎 日出丸 様

謹啓 梅雨の候、貴社ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

東日本大震災により被災された方々に、謹んでお見舞い申し上げます。

この度は、当財団の被災地支援に係るご協力の呼び掛けに迅速に心よく応じて頂き、深く御礼申し上げます。皆様からご提供賜りました物資は、被災者へ直接お届けしてご活用頂いたり、あるいはボランティア活動の現場で活用させて頂くなど、どの物資も一つも無駄にすることなく有効に使用させて頂いており、被災された方々にとって大きな力を与えるものとなりました。

当財団では、今後も引き続き役職員一同最大限の力を発揮するとともに、パートナーであるNPO法人、ボランティア団体との連携を一層高め、復興に向けた支援に取り組んで参る所存ですので、引き続き私どもの活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本来であれば拝眉の上御礼申し上げるべきところではございますが、まずは書中にて失礼いたします。貴台の益々のご健勝並びにご事業の一層のご発展をお祈り申し上げます。

謹言

公益財団法人 日本財団

会長

益川 陽平



企 第 118 号
平成23年7月28日

各 位

大船渡市長 戸 田 公 明



東日本大震災に伴うご支援への御礼について
時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、去る3月11日に発生した東日本大震災により、本市におきましても、かつて経験したことの無い未曾有の被害を受け、多くの尊い市民の生命と財産が奪われました。

このような中、全国各地からさまざまな形でのご支援をいただき、誠に感謝に堪えません。絶望の淵に立った市民に、生きる力と、再び立ち上がる勇気を与えていただきました。皆様の心温まるご厚情に対し、市民を代表して心から御礼申し上げます。

あの大震災から、早4ヵ月が経過し、水道や電気、通信網等のライフラインも一部の地域を除き復旧するとともに、がれきの撤去が順調に進み、また、仮設住宅への入居も終盤を迎えるなか、加えて、市内事業所の中には仮設店舗で業務を再開する動きも見られ、着実に、復旧から復興へと歩んでいるところであります。

現在、本市では、大震災からの早期復興と市民が安心して生き生きと暮らすことができる新たな大船渡市を創るため、市民の皆さんとともに復興計画の策定に邁進しております。

復興への道のりは遠く険しいものと存じておりますが、本市は、過去において、明治三陸大津波（1896年）、昭和三陸地震津波（1933年）、チリ地震津波（1960年）など、幾多の大津波により甚大な被害を受けながらも、不撓不屈の精神で、危機を乗り越えてきました。

今回の大震災による被害は、想像を絶するほど甚大なものでありますが、皆様のご支援を励みに、1日も早い復旧・復興に向け、必ずや皆様のご支援に応えられるよう、市民一丸となって取り組んでいく決意でありますので、変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

結びに、皆様の今後ますますのご健勝とご活躍を心より祈念申し上げ、御礼とさせていただきます。